

2019年8月31日(土) 於 大東文化会館
ASLE-Japan/文学・環境学会 第25回全国大会
院生企画「見えない景色を旅する」

見えないものを見せる——環境批評としての作品

青田 麻未

0. イントロダクション

- ・この発表の目的：これまでの登壇者の発表を、「環境の批評」という観点から振り返ることとで統一的な視点のもとで考察する。
- ・参照される領域：環境美学・日常美学¹

1. 環境の批評——研究の背景

- ・ Carlson [1977]: ナチュラリスト = 環境批評家
 - 大衆的なピクチャレスクの美学からの脱出
 - 芸術批評家と同様に、対象についての知識²と感受性を持つ
 - ただ対象の形式を見ているだけでは気づくことのできない美的価値に到達³
 - 「レオポルド自身が、彼の属する伝統のうちのほかの人々とともに、我々の社会の環境批評家のうちのひとつの範例だとみなされるべきである」(p. 290.)

2. 批評家によるフレーミング

- ・環境批評について考える際に考慮すべき論点
 - ①批評の持つ規範性／公共性
 - ②批評対象の決定→今日主に考えるのはこちら
- ・ Hepburn [1966]: 自然には「フレームがない」
 - ある芸術-対象のフレームを越えて存在しているものはなんでも、ふつうはその対象にとって重要な美的経験の部分にはなりえない。偶然の汽笛は、弦楽四重奏へと統合されることはできない。その汽笛はただ、四重奏の鑑賞を妨げるのみである。しかしフレームがないときには、そして自然が我々の美的対象であるときには、我々の注意のもと

¹ 環境美学：1970年ごろより、北米を中心とする英語圏において興った分野。初めは自然環境の美的鑑賞について、のちに自然に限定されない環境の美的鑑賞について論じる。

日常美学：環境美学の問題意識を引き継ぎつつ、2000年代後半より研究が蓄積されている分野。日常生活のなかにある美的なものについて論じる分野。

² ここでの知識とは、その環境が自然科学・社会科学の見地からみて、どのように形成されてきたのかを知ること、つまり、その土地の自然史・歴史を知ること指している。

³ ここでの「美的価値(aesthetic value)」は、「美(beauty)」に限定されない。知識、想像力など様々な能力を行使しつつ、感性によって諸要素が統合されることで把握される価値全般のことを指す。

との境界を乗り越えてきた音や視覚的侵入は、その侵入を我々の経験全体のうちに統合するようにと、その侵入に対して余地を与えるように経験を修正するようにと、我々に迫ることができるのだ。(pp. 523-524.)

・「環境」：客体（自然物や建造物など）の絶えざる物理的な変化と、主体の作用（知覚、知識、想像力など）によって設定される批評対象

→主体の能力の重要性

Berleant [1992]: 記述美学という批評のメソッド→ネイチャーライティングへの接近

Leddy [2012]: ... 「芸術家（詩人、振付師、小説家、映画製作者など）は、彼らの見解が哲学的に練られたものではない場合にさえも、日常生活の美学における真の熟練者であることがしばしばだ。彼らは、経験を「構成し」フレームをつけ、そうすることによって日常的なものを鑑賞することに関して我々を助ける。リアリズム的な作品である場合に限らず、芸術家の作品を知覚することは、どのようにすれば日常生活の諸要素が美的に知覚されうるのかを我々に理解させる。(p. 99.)」

3. 見えない景色を見せる

・グループ 1: フレームと活動（伊東、戸張）

-伊東：居住者+釣り→失われゆく水風景のフレーム

-戸張：歩く→人間、生物、非生物など構成要素豊かなフレーム

・グループ 2: フレームと歴史（谷口、三宅）

-谷口：隠れた看板の発見→ローカルなものをグローバルな歴史に接続するフレーム

-三宅：異なる歴史を持つ者による異なるフレーミング→フレームの複数性の重要性

・グループ 3: フレームと公共性（笠間、谷口、江川）

-笠間：据え置きフレームの拒否→色濃い主体性のあるフレーム

-林：研究と日記の「分裂」→フレームにおける主体性の位置づけの問題

-江川：土地の新たな呼び名の創造→公共的なフレームの可能性

【参考文献】

Berleant, Arnold. 1992. *The Aesthetics of Environment*. Philadelphia: Temple University Press.

Carlson, Allen. 1977. "On the Possibility of Quantifying Scenic Beauty." *Landscape Planning* 4: 131-172.

Hepburn, Ronald. 2004 [1966]. "Contemporary Aesthetics and the Neglect of Natural Beauty." in Peter Lamarque and Stein Haugom Olsen (eds.) *Aesthetics and the Philosophy of Art—The Analytic Tradition: An Anthology*. Oxford: Blackwell Publishing, 521-534.

Leddy, Thomas. 2012. *The Extraordinary in the Ordinary: The Aesthetics of Everyday Life*. Peterborough: Broadview Press.